

第4章 外事情勢

北朝鮮の対日有害活動

情勢

北朝鮮は、平成28年中、**核実験やミサイル発射**を繰り返し行い、軍事力を誇示する動向がみられました。1月には、4回目となる核実験を実施し、2月には、「人工衛星」と称する長距離弾道ミサイルを発射しました。これらに対し、国際連合安全保障理事会は、3月、北朝鮮に対する新たな制裁を盛り込んだ決議を採択しました。しかし、北朝鮮は、3月以降も弾道ミサイルを立て続けに発射し、8月及び9月に発射されたミサイルは、**我が国の排他的経済水域（EEZ）内に着弾**しました。また、9月には、5回目となる核実験を実施するなど、国際社会への対決姿勢を強めており、この核実験を受け、11月、国際連合安全保障理事会は、更なる制裁を盛り込んだ決議を採択しました。

内政面では、^{キムジョンイル}金正日時代の制度を改めることで、^{キムジョンウン}金正恩体制の権威と基盤を確立しようとする動きがみられました。5月、**36年ぶりとなる朝鮮労働党大会**を開催し、金正恩朝鮮労働党第一書記（当時）が、朝鮮労働党の最高位として新設された「朝鮮労働党委員長」に就任しました。また、6月には、最高人民会議を開催し、同会議において「最高国防指導機関」である国防委員会が「最高政策的指導機関」である「国務委員会」に改められ、金正恩朝鮮労働党委員長が新たに「国務委員会委員長」に就任しました。他方、経済ではいまだ結果が出ておらず、また、高級幹部の粛清が継続しているなどの状況に鑑みれば、決して現在の金正恩体制が安定しているとは言い難い状況です。

中朝関係については、28年中、北朝鮮が、核実験やミサイル発射を繰り返したことに伴い、関係が悪化しているとみられる一方、6月には北朝鮮の李洙墉^{リスヨン}朝鮮労働党中央委員会副委員長が訪中して^{しゅうきんべい}習近平総書記と会談するなど、中朝間では交流が継続しています。

朝鮮総連^{れん}との関係では、2月、北朝鮮の朝鮮中央放送が、朝鮮総連傘下の朝鮮商工会館に対する強制捜査を「日本の安倍政権の反共和国・反総連制裁策動の一環であり、共和国の国家主権を侵害して総連活動家と在日同胞を一層迫害し、総連を何としても抹殺しようとする重大な政治テロ行為である」と非難しました。また、5月の朝鮮労働党大会に合わせて朝鮮総連が訪朝団を派遣するなどしており、**北朝鮮と朝鮮総連との密接な関係が継続**しています。



長距離弾道ミサイル発射の状況
(28年2月) (AFP=時事)



朝鮮労働党第7回大会で演説する
金正恩朝鮮労働党委員長 (朝鮮通信=時事)

対日諸工作

朝鮮総聯は、28年2月、外為法違反事件に係る朝鮮商工会館に対する強制捜査に関し、朝鮮総聯中央常任委員会の機関紙である朝鮮新報を通じ、「安倍政権が朝鮮に対する「独自制裁」の「正当性」を世論化し、総聯のイメージを傷つけようとするところにその政治的企図がある」などと批判するなど、抗議・けん制活動を展開しました。また、朝鮮総聯は、地方自治体から朝鮮学校に支給されている補助金について文部科学省が留意を求める通知を出したことを「極めて政治的で差別的な措置」などと非難し、朝鮮学校を高校授業料無償化制度の適用から除外する措置等を直ちに撤廃するよう、**各種宣伝活動や文部科学省等に対する要請行動**を行いました。

北朝鮮による諜報活動も依然として行われており、2月、警視庁は、**戦後53件目となる北朝鮮関係諜報事件を検挙**しました。本事件では、被疑者が、韓国における協力者と連携するなどしながら、韓国の政界に関する情報を収集するなど、様々な活動を行っていたことが明らかとなっています。

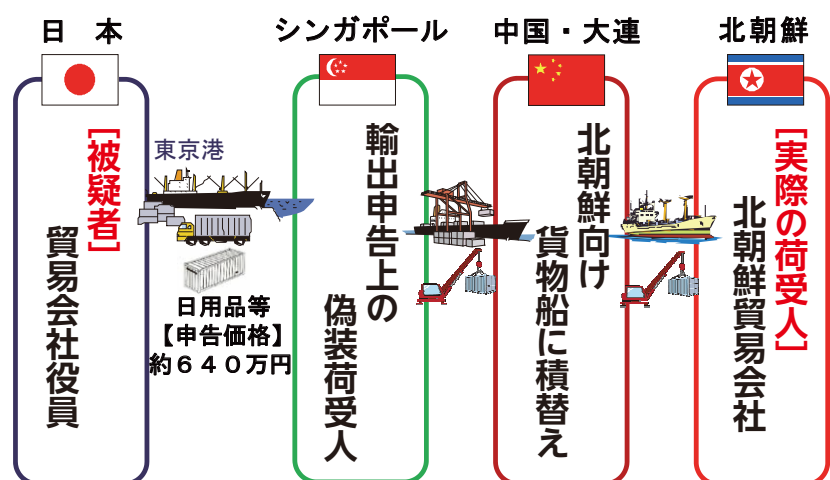
対北朝鮮措置

日本政府は、拉致、核、ミサイル問題に関する前向きで具体的な行動を北朝鮮から引き出すため、全ての品目の北朝鮮との間での輸出入禁止等の独自措置（対北朝鮮措置）を講じています。警察では、同措置の実効性を確保するため、18年以降、これまでに**36件**の不正輸出入事件を検挙しており、**28年中**には、

- **日用品等をシンガポール及び中国・大連を經由させて北朝鮮向けに不正に輸出した外為法違反事件**
- **ニット生地を中国・大連を經由させて北朝鮮向けに不正輸出した外為法違反事件の2件を検挙**しました。

北朝鮮向けの不正輸出については、2か所を經由させる二重迂回の手口が用いられるなど、年々悪質化・巧妙化していることから、警察では、関係機関との連携を緊密にし、引き続き取締りを強化していくこととしています。

北朝鮮向け日用品等の不正輸出事件



日用品等の不正輸出の流れ

第4章 外事情勢

北朝鮮による拉致容疑事案

北朝鮮は、14年9月、平壤で行われた日朝首脳会談において、長年否定していた日本人の拉致を初めて認め、謝罪し、10月には5人の拉致被害者の24年ぶりの帰国が実現しました。しかし、残りの安否不明の方々については、16年5月の第2回日朝首脳会談において、北朝鮮側から、直ちに真相究明のための徹底した調査を再開する旨の明言があったにもかかわらず、いまだ北朝鮮当局から納得のいく説明はありません。

最近では、26年5月の日朝政府間協議において、北朝鮮側は、拉致被害者を含む全ての日本人に関する包括的かつ全面的な調査の実施を表明しました。これを受けて、7月に行われた日朝政府間協議後、北朝鮮は、特別調査委員会を立ち上げて調査を開始しましたが、北朝鮮側から調査結果の報告はなされておらず、拉致被害者の帰国は実現していません。

警察は、これまでに日本人拉致容疑事案12件17人及び朝鮮籍の姉弟が日本国内から拉致された事案1件2人の計**13件19人を北朝鮮による拉致容疑事案と判断**するとともに、北朝鮮工作員等拉致に関与したとして**8件11人の逮捕状の発付を得て国際手配**を行っており、更なる実行犯の特定及び指揮命令系統の解明に向けて全力を挙げています。

拉致容疑事案以外にも、警察が**北朝鮮による拉致の可能性を排除できない事案として捜査・調査の対象としている行方不明者の数は全国で883人**（28年12月31日現在）に上っています。

警察では、今後とも、関係機関と緊密に連携を図りながら拉致容疑事案及び北朝鮮による拉致の可能性を排除できない事案の全容解明に向けた捜査・調査を強力に推進し、拉致被害者の家族や国民の期待に応えるよう、全力を尽くすこととしています。

北朝鮮による拉致容疑事案	発生時期	被害者※（ ）内は、当時の年齢	発生場所	国際手配被疑者	
	1	昭和49年6月	高敬美 <small>コキョウミ</small> さん（7）、高剛 <small>コガウ</small> さん（3）	福井県小浜市	洪寿恵 <small>ホンスウヱ</small> こと木下陽子
	2	昭和52年9月	久米裕 <small>ユタカ</small> さん（52）	石川県鳳至郡 <small>フビシ</small> （現 鳳珠郡 <small>ほうしゆ</small> ）	金世鎬 <small>キムセホ</small>
	3	昭和52年10月	松本京子 <small>キョウコ</small> さん（29）	鳥取県米子市	
	4	昭和52年11月	横田めぐみ <small>メグミ</small> さん（13）	新潟県新潟市	
	5	昭和53年6月頃	田中実 <small>ミチ</small> さん（28）	兵庫県神戸市	
	6	昭和53年6月頃	田口八重子 <small>ヤチ子</small> さん（22）	不明	
	7	昭和53年7月	地村保志 <small>タチムラ</small> さん（23） H14.10帰国 地村（旧姓：濱本）富貴恵 <small>トキキエ</small> さん（23） H14.10帰国	福井県小浜市	辛光洙 <small>シンクワンソ</small>
	8	昭和53年7月	蓮池薫 <small>ハスノ</small> さん（20） H14.10帰国 蓮池（旧姓：奥土）祐木子 <small>ユキコ</small> さん（22） H14.10帰国	新潟県柏崎市	通称チェ・スン Chol 通称ハン・クムニョン 通称キム・ナムジン
	9	昭和53年8月	市川修一 <small>シウイチ</small> さん（23） 増元るみ子 <small>ルミコ</small> さん（24）	鹿児島県日置郡 <small>ヒツキ</small> （現 日置市 <small>ヒツキ</small> ）	
	10	昭和53年8月	曾我ひとみ <small>ヒトミ</small> さん（19） H14.10帰国 曾我ミヨシ <small>ミヨシ</small> さん（46）	新潟県佐渡郡 <small>サツ</small> （現 佐渡市）	通称キム・ミヨンスク
	11	昭和55年5月頃	石岡亨 <small>トシユキ</small> さん（22） 松木薫 <small>カウ</small> さん（26）	欧州	森順子 <small>モリノコ</small> 若林（旧姓：黒田）佐喜子 <small>サキコ</small>
	12	昭和55年6月	原菟 <small>ウサギ</small> さん（43）	宮崎県宮崎市	辛光洙 <small>シンクワンソ</small> 金吉旭 <small>キムキルク</small>
	13	昭和58年7月頃	有本恵子 <small>エミコ</small> さん（23）	欧州	魚本（旧姓：安部）公博